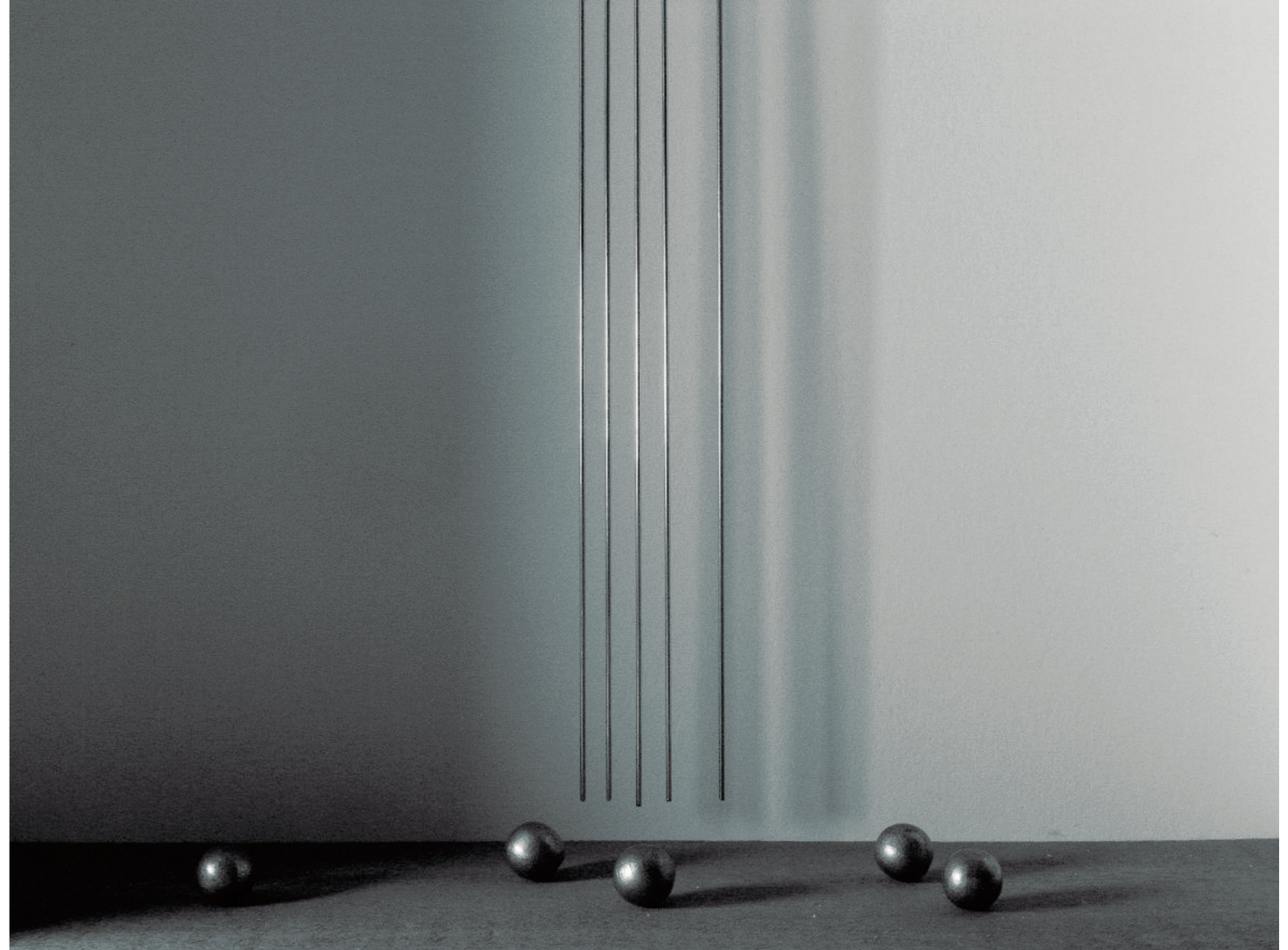
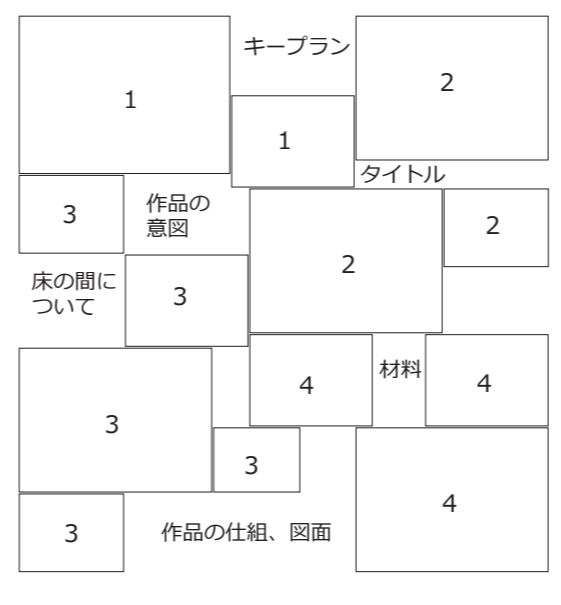




・写真キープラン

部材レイアウト番号 (4案)  
1:17-E10-G19-H32-D36  
い 10-あ 12-あ 15-あ 33-あ 34  
2:G9-I17-F21-I30-E33  
あ 19-あ 20-あ 21-あ 22-あ 24  
3:G6-C13-H21-E24-F34  
い 8-あ 12-い 19-あ 22-あ 24  
4:D7-D17-D20-D29-D35  
い 8-あ 10-あ 13-い 15-あ 16



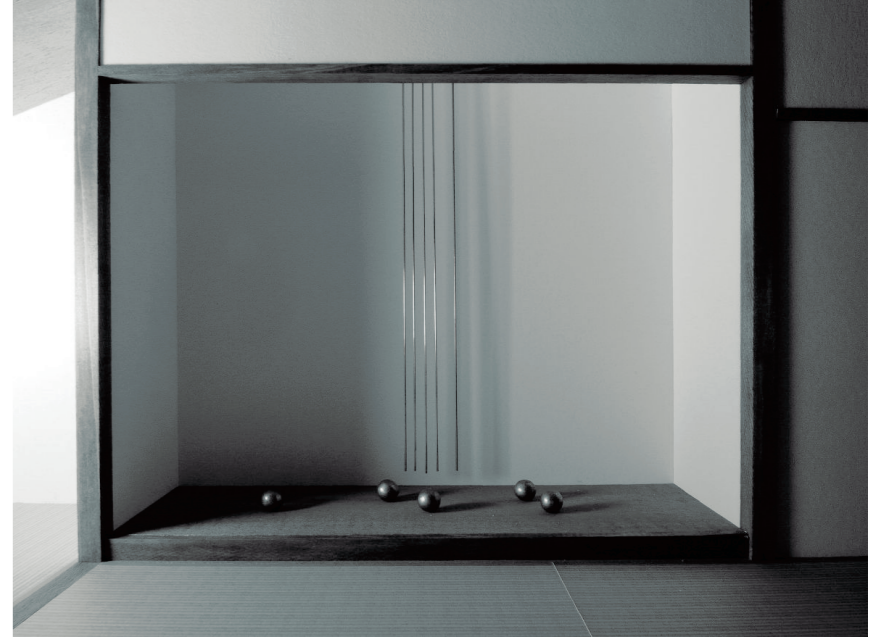
## 床の間の許容力



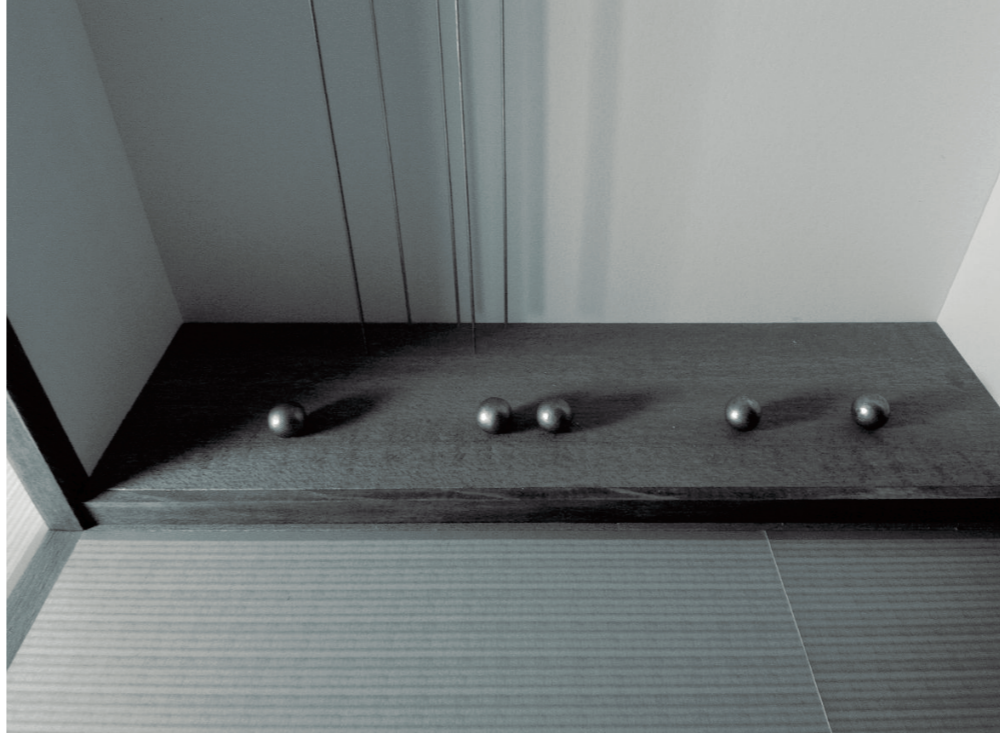
・床の間の許容力  
床に置くという水平性、背面壁に掛けるという垂直性という法則は、床の間による空間バランスに影響が少なく、許容能力が大きいようである。古来からの掛け軸、置物（花、盆栽、陶器、石など）の配置は仕組みをしてこれに適合しており、部屋の利用者が好きなものを飾り、楽しむことができる。

当作品は、この床の間のもつ許容力の中で、部屋の利用者が創作を楽しむことができるような提案。床の間の許容力自体を体感する作品。

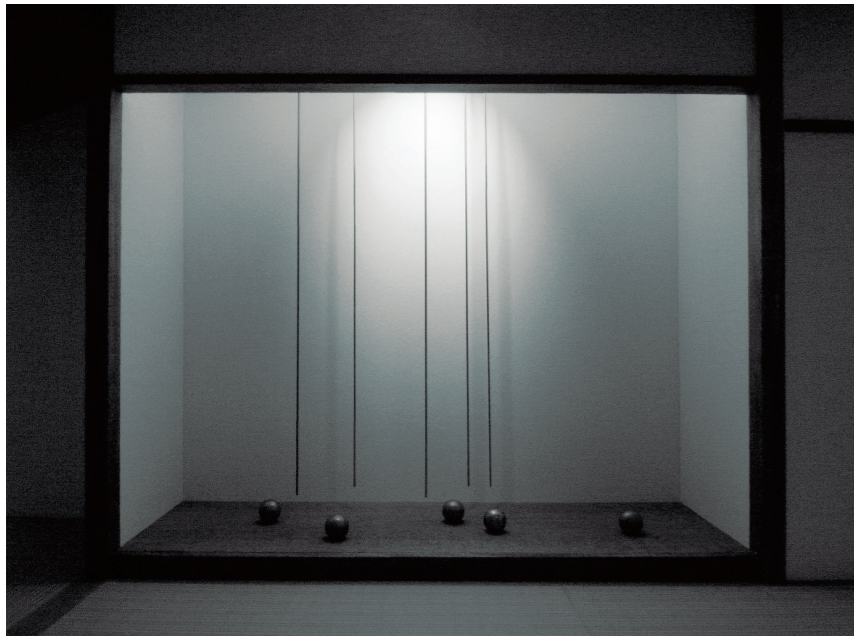
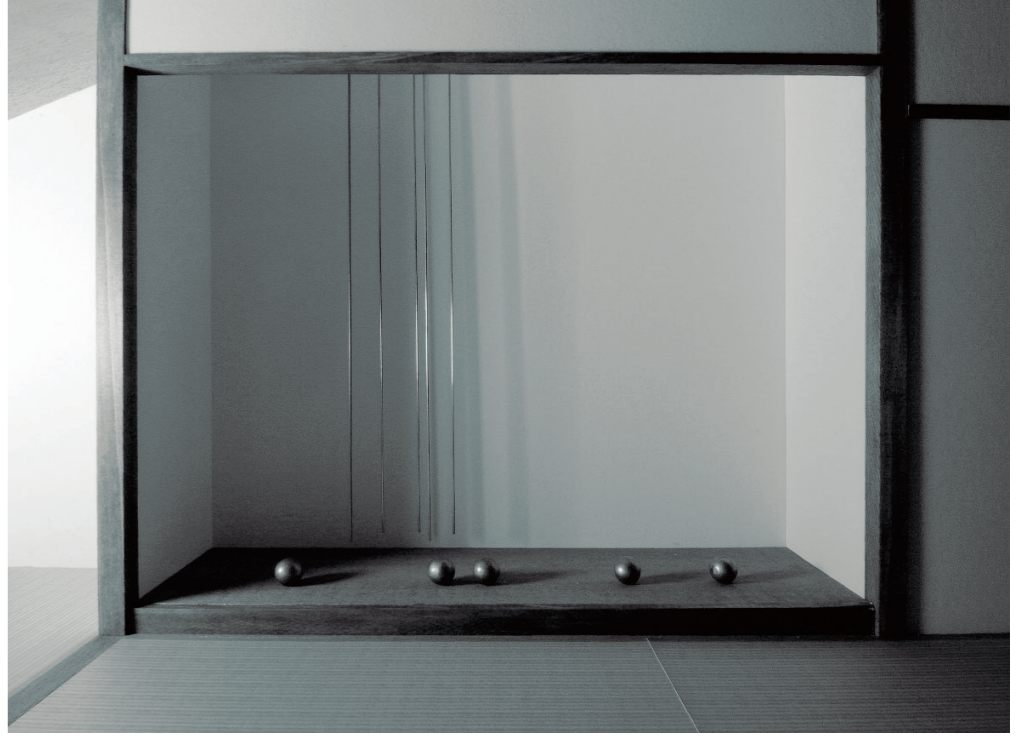
・床の間の役割  
床の間は、その空間の特異点である。長押による高さ方向の分節、その分節を直行する床柱で止めての高さ方向の統合、その床柱に分節された長押による水平方向の要素を、落掛けにより統合するが、長押と高さを変えることで、垂直方向の統合に対する思いを受け止める。床の間周辺の各部材の取合い、材寸、高さ関係等の調整がこれらを受け止めるかどうかを決める重要な場所。  
このように空間全体の質をコントロールしているこの「床の間」に飾られるものは、これらのイメージを踏まえた上でのものでなければ、床の間がコントロールしている空間のバランスを壊してしまう。床の間に対する態度（従属・対抗など）は色々あるが、そのバランスを考慮した上でのイメージが必要となる。



・かたちを与えること  
作品のパーツは球と棒。これら自体から造形のイメージを引き出すのは難しい。レイアウトに対する制限は、球の配置に対する床の座標と、棒を吊り下げるためのカーテンレールであるが、造形に理由を与えるものとはならない。これらに対し何らかのレイアウトを与えることが創造となる。  
風景（海、森、滝、雨など）からのイメージ、シンメトリーや幾何学、きれいに揃えて並べる、など様々なアプローチがされるかと。



材料  
・球：直径 100mmの木球  
シルバー塗装 布磨き  
・吊棒：直径 10mmAl パイプ  
シルバー塗装 布磨き  
※片端部にフック取付  
・吊棒用カーテンレール  
・座標：カッティングシート  
一見冷たさを感じさせる表面の質感に対し、印象と異なる重さ、熱伝導率の触感とすることで、軽く困惑。



・技術なしで誰でもできる創作行為  
→ 天井からの吊棒と床の球のレイアウト  
この吊棒と球は、床の間が許容する垂直性、水平性をミニマムに表現する要素となっている。  
・球、吊棒は宿泊者が自由に動かしてレイアウトする。  
よいものができれば、写真をとってもらおう。  
床に座標のマークしておく。  
※下記および写真キープラン参照  
写真の横にこの番号（パーツ計 10 個分）をメモしておく  
過去の宿泊者のレイアウトデータ、写真をファイリング。  
写真の中で良いものがあれば、番号に従い再現できる。

